

- 32 事も無く鏡開きの二人かな
- 31 払う尾で陣地拡張コタツ猫
- 30 十日戎新馬の鈴は蚊帳の外
- 29 雲切れて目潰しとなる雪解道
- 28 難聴を太鼓で聞かす十日戎
- 27 雑踏し裏に拝みし十日戎
- 26 日向ほこ聖歌漏れくる木のベンチ
- 25 臘梅の九つなるをまた数ふ
- 24 雪の郷屋根寄せ合ふて佇めり
- 23 このあたり御狩野あとや若菜摘む
- 22 餅花の揺れて賑はふ繁盛亭
- 21 片岸の染むる朝日や寒の入り
- 20 人波に乗れば迷わぬ初参り
- 19 手びねりの花瓶送りて寒見舞
- 18 冬夕焼綺羅の橋揺る余呉湖かな
- 17 父母の墓一つ弾けし冬木の芽
- 16 臘梅の枝打ち過ぎて花僅か
- 15 狛犬の目に五円玉首に注連
- 14 川沿ひの木々にほつほつ梅早し
- 13 潮風に吹かれ並びし大根かな
- 12 水仙のなぞえに猫のもんどりうつ
- 11 寒林やトロンボーンの低き音
- 10 幾重にも遠き山々寒日和
- 9 贈られし手袋類にあててみる
- 8 雪いだく山に日矢射し煌めけり
- 7 げん担ぐ真つ赤な靴の受験生
- 6 冬茜への字を描き消ゆる鳥
- 5 日本海の初景色見て実家へと
- 4 神馬像少し丸顔宵えびす
- 3 空港に降り立つ寒の目覚めかな
- 2 赤のラインばかりなる本受験生
- 1 御降の雪へと変はる湖鏡